交付図書の訂正について

令和８年７月３１日付けで入札公告を行った「令和９年度　磐越自動車道　会津若松～西会津間水文調査」に係る交付図書に一部誤りがあったため、別添のとおり訂正します。

令和８年１０月２６日

契約責任者
東日本高速道路株式会社
東北支社長　加藤 健治

【訂正内容】
・特記仕様書
・金抜設計書
・金抜設計書（ＣＳＶ）
・参考図
・入札公告（説明書）

※訂正箇所は、別添「正誤表」をご確認ください。

令和９年度
磐越自動車道
会津若松～西会津間水文調査

交　付　図　書　正　誤　表

令和８年１０月

東日本高速道路株式会社　東北支社
会津若松管理事務所

対象	誤	正	備考
金抜設計書 水質分析試験	内　訳　書 工種・名称・細目 / 単位 / 数量 / 単価 / 金額 / 摘要 水質分析試験　電気伝導度(ＥＣ) / 試料 / 76 水質分析試験　水素イオン濃度(ｐＨ) / 試料 / 314 地下水位観測　自記水位計設置 / 箇所 / 2 地下水位観測　自記水位計観測 / 箇所・回 / 104 足場仮設　平坦足場(高さ０．３m超) / 箇所 / 2 現場内小運搬 / 地点 / 1 準備及び跡片付け / 式 / 1 機械等運搬 / 式 / 1 流量観測　容器法 / 箇所・回 / 152 流量観測　断面法 / 箇所・回 / 24 ホタル類生息調査　生息確認調査Ａ / km / 1.65 ホタル類生息調査　生息確認調査Ｂ / km / 1.65 ホタル類生息調査　生息環境調査Ａ / 回 / 4 ホタル類生息調査　生息環境調査Ｂ / 回 / 1 報告書作成 / 部 / 1 交通費・宿泊費 / 式 / 1	内　訳　書 工種・名称・細目 / 単位 / 数量 / 単価 / 金額 / 摘要 水質分析試験　カドミウム / 試料 / 202 水質分析試験　鉛 / 試料 / 202 水質分析試験　六価クロム / 試料 / 202 水質分析試験　水銀 / 試料 / 202 水質分析試験　セレン / 試料 / 202 水質分析試験　フッ素 / 試料 / 202 水質分析試験　ホウ素 / 試料 / 202 水質分析試験　化学的酸素要求量(ＣＯＤ) / 試料 / 76 水質分析試験　亜鉛 / 試料 / 76 水質分析試験　銅 / 試料 / 76 水質分析試験　全窒素（加圧分解法） / 試料 / 76 水質分析試験　電気伝導度(ＥＣ) / 試料 / 76 水質分析試験　大腸菌数 / 試料 / 92 水質分析試験　生物化学的酸素要求量(ＢＯＤ) / 試料 / 92 水質分析試験　ヒ素 / 試料 / 274 水質分析試験　浮遊物質量(ＳＳ) / 試料 / 120	訂正

対象	誤	正	備考
金抜設計書 ホタル類生息調査	内　訳　書 工種・名称・細目 / 単位 / 数量 / 単価 / 金額 / 摘要 水質分析試験　電気伝導度(ＥＣ) / 試料 / 76 水質分析試験　水素イオン濃度(ｐＨ) / 試料 / 314 地下水位観測　自記水位計設置 / 箇所 / 2 地下水位観測　自記水位計観測 / 箇所・回 / 104 足場仮設　平坦足場(高さ０．３m超) / 箇所 / 2 現場内小運搬 / 地点 / 1 準備及び跡片付け / 式 / 1 機械等運搬 / 式 / 1 流量観測　容器法 / 箇所・回 / 152 流量観測　断面法 / 箇所・回 / 24 ホタル類生息調査　生息確認調査Ａ / km / 1.65 ホタル類生息調査　生息確認調査Ｂ / km / 1.65 ホタル類生息調査　生息環境調査Ａ / 回 / 4 ホタル類生息調査　生息環境調査Ｂ / 回 / 1 報告書作成 / 部 / 1 交通費・宿泊費 / 式 / 1	内　訳　書 工種・名称・細目 / 単位 / 数量 / 単価 / 金額 / 摘要 水質分析試験　溶存酸素量(ＤＯ) / 試料 / 120 水質分析試験　水素イオン濃度(ｐＨ) / 試料 / 314 地下水位観測　自記水位計設置 / 箇所 / 2 地下水位観測　自記水位計観測 / 箇所・回 / 104 足場仮設　平坦足場(高さ０．３m超) / 箇所 / 2 現場内小運搬 / 地点 / 1 準備及び跡片付け / 式 / 1 機械等運搬 / 式 / 1 流量観測　容器法 / 箇所・回 / 152 流量観測　断面法 / 箇所・回 / 24 ホタル類生息調査　生息確認調査Ａ / ｋｍ・回 / 6.6 ホタル類生息調査　生息確認調査Ｂ / ｋｍ・回 / 3.3 ホタル類生息調査　生息環境調査Ａ / 回 / 4 ホタル類生息調査　生息環境調査Ｂ / 回 / 1 報告書作成 / 部 / 1 交通費・宿泊費 / 式 / 1	訂正

対象	誤	正	備考
金抜設計書 ホタル類生息調査 水文総合解析（簡易）	内　訳　書 工 種 ・ 名 称 ・ 細 目 / 単 位 / 数 量 / 単 価 / 金 額 / 摘 要 小計 諸経費 / 式 / 1 計 技術業務直接人件費 水文総合解析（簡易） / k㎡ / 1.58 ホタル類生息調査　生息調査計画 / km / 1.65 ホタル類生息調査　調査結果とりまとめ / km / 1.65 打合せ / 式 / 1 計 技術業務直接経費 交通費・宿泊費（技術業務　現地踏査） / 式 / 1 交通費・宿泊費（技術業務　打合せ） / 式 / 1 小計 その他原価 / 式 / 1 一般管理費等 / 式 / 1 計	内　訳　書 工 種 ・ 名 称 ・ 細 目 / 単 位 / 数 量 / 単 価 / 金 額 / 摘 要 小計 諸経費 / 式 / 1 計 技術業務直接人件費 ホタル類生息調査　生息調査計画 / k m / 1.65 ホタル類生息調査　調査結果とりまとめ / 式 / 1 水文総合解析（簡易） / k㎡ / 1.58 打合せ / 式 / 1 計 技術業務直接経費 交通費・宿泊費（技術業務　現地踏査） / 式 / 1 交通費・宿泊費（技術業務　打合せ） / 式 / 1 小計 その他原価 / 式 / 1 一般管理費等 / 式 / 1 計	訂正

対象	誤	正	備考
特記仕様書 2-3-8　現場内運搬 2-5-1　試料採取	2－3－5　水田等での油対策 水田等で調査ボーリングを行う際にはボーリング機械の油が拡散しないよう十分な養生を行うものとする。 2－3－6　調査ボーリングの打ち止め位置 調査ボーリングの打ち止め位置は、監督員と受注者とで協議し決定するものとする。 2－3－7　足場仮設 （1）足場仮設の区分 共通仕様書3－16（1）「平坦足場」に下表を追加する。 種別・規格 / 箇所数 / 対象ボーリング番号 平坦足場　高さ0.3m超 / 2 / BN-1(Hg)、BN-2(Hg) 2－3－8　現場内運搬 （1）現場内小運搬 現場内小運搬の種別及び数量は、下表のとおりとする。 内訳書の項目 / 種別 / 箇所数 / 対象ボーリング番号 / 備考 現場内小運搬 / クローラ / 1 / BN-1(Hg) / 運搬距離100m以下 2－4　孔内試験 2－4－1　現場透水試験 現場透水試験の内訳は下表のとおりとする。 試験方法 / 試験深度 / 試験回数 ケーシング法 / 10m以内 / 2 2－5　水質分析試験 2　5　1　試料採取 試料採取とは、共通仕様書3－11－3「水質分析試験」に従い水質分析試験に用いる試料を各調査箇所より採取することをいう。試料採取の採取区分、採取位置等は下表のとおりとする。 試料採取の検測数量は、採取を行った箇所毎の回数（箇所・回）とする。 なお、観測実測時期については、監督員と協議し定めるものとする。 採取区分 / 調査位置 / 観測頻度 / 観測予定時期 観測井 / 東神指地区(Hg) / BN-1(Hg)～2(Hg) / 4回／年 / ※1 観測井 / 東神指地区(Hg) / BN-1(Hg)～2(Hg) / 1回／月 / ※2 観測井 / 片門地区(Kt) / BN-1(Kt)～2(Kt) / 1回／月 / ※3 既設井戸・河川 / 片門地区(Kt) / A-1(Kt) / 2回／年 / ※4 既設井戸・河川 / 片門地区(Kt) / P-1(Kt) / 1回／月 / ※3 既設井戸・河川 / 天屋地区(Te) / R-2(Te) / 2回／年 / ※4 - 8 -	給水管及びポンプ設置 / BN 1(Hg)、BN 2(Hg) / 水源までの距離20m未満 2－3－5　水田等での油対策 水田等で調査ボーリングを行う際にはボーリング機械の油が拡散しないよう十分な養生を行うものとする。 2－3－6　調査ボーリングの打ち止め位置 調査ボーリングの打ち止め位置は、監督員と受注者とで協議し決定するものとする。 2－3－7　足場仮設 （1）足場仮設の区分 共通仕様書3－16（1）「平坦足場」に下表を追加する。 種別・規格 / 箇所数 / 対象ボーリング番号 平坦足場　高さ0.3m超 / 2 / BN-1(Hg)、BN-2(Hg) 2－3－8　現場内運搬 （1）現場内小運搬 現場内小運搬の種別及び数量は、下表のとおりとする。 内訳書の項目 / 種別 / 地点数 / 対象ボーリング番号 / 備考 現場内小運搬 / クローラ / 1 / BN-1(Hg) / 運搬距離100m以下 2－4　孔内試験 2－4－1　現場透水試験 現場透水試験の内訳は下表のとおりとする。 試験方法 / 試験深度 / 試験回数 ケーシング法 / 10m以内 / 2 2－5　水質分析試験 2－5－1　試料採取 試料採取とは、共通仕様書3－11－3「水質分析試験」に従い水質分析試験に用いる試料を各調査箇所より採取することをいう。試料採取の採取区分、採取位置等は下表のとおりとする。 試料採取の検測数量は、採取を行った箇所毎の回数（箇所・回）とする。 なお、観測実測時期については、監督員と協議し定めるものとする。 採取区分 / 調査位置 / 観測頻度 / 観測予定時期 既設井戸・河川 / 片門地区(Kt) / A-1(Kt) / 2回／年 / ※1 既設井戸・河川 / 片門地区(Kt) / P-1(Kt) / 1回／月 / ※2 既設井戸・河川 / 天屋地区(Te) / R-2(Te) / 2回／年 / ※1 既設井戸・河川 / 本名地区(Hn) / A-1(Hn)～2(Hn)、T-1(Hn)～2(Hn) R-1(Hn)　～2(Hn)、S-1(Hn) / 2回／年 / ※1 - 8 -	訂正

対象	誤	正	備考
特記仕様書 2-5-1　試料採取			訂正

誤

	本名地区(Hn)	A-1(Hn)～2(Hn)、T-1(Hn)～2(Hn) R-1(Hn) ～2(Hn)、S-1(Hn)	2回／年	※4
		P-1(Hn)～2(Hn)	1回／月	※3
	赤城新田地区(Ak)	I-1(Ak)	2回／年	※4
	軽沢地区(Kr)	R-1(Kr)、S-1(Kr)～3(Kr) S-5(Kr)～6(Kr)、Y-1(Kr)	2回／年	※4
	縄沢地区(Tn)	R-1(Tn)～2(Tn)、A-1(Tn)～4(Tn) S-1(Tn)～3(Tn)、T-2(Tn)	2回／年	※4
	萱本地区(Ky)	A-2(Ky)、T-1(Ky)、B-1(Ky)～ 4(Ky)、R-1(Ky) 、S-1(Ky)	2回／年	※4

※1：令和９年５月、令和９年７月、令和９年９月、令和９年１１月
※2：令和１０年４月から令和１１年４月までの期間
※3：令和９年１月から令和１１年４月までの期間
※4：令和９年７月、令和９年１１月、令和１０年７月、令和１０年１１月

２－５－２　水質分析試験

水質分析試験とは、共通仕様書３－１１－３「水質分析試験」に従い行う試験をいう。

適用基準及び項目については、下表のとおりとする。なお、試験は公正を確保するため受注者を通じて公的機関で試験を行うものとする。試験の実施については、現地水源の利水状況等を調査し、別途監督員と打合せの上行うものとし、試験結果を受領後は、その都度、速やかに監督員へ結果を提出するものとする。

水質分析試験の検測数量は、試験を行った試料数（試料）とする。

適用基準	項目	備考
水道水質基準	一般細菌	飲用水
	亜硝酸態窒素 塩化物イオン	
	全有機炭素（TOC）	
	味	
	臭気	
	色度	
	濁度	
	大腸菌	
	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	
地下水基準	カドミウム	重金属
	鉛	
	六価クロム	
	水銀	
地下水基準	セレン	重金属

正

		P-1(Hn)～2(Hn)	1回／月	※2
	赤城新田地区(Ak)	I-1(Ak)	2回／年	※1
	軽沢地区(Kr)	R-1(Kr)、S-1(Kr)～3(Kr) S-5(Kr)～6(Kr)、Y-1(Kr)	2回／年	※1
	縄沢地区(Tn)	R-1(Tn)～2(Tn)、A-1(Tn)～4(Tn) S-1(Tn)～3(Tn)、T-2(Tn)	2回／年	※1
	萱本地区(Ky)	A-2(Ky)、T-1(Ky)、B-1(Ky)～ 4(Ky)、R-1(Ky) 、S-1(Ky)	2回／年	※1
観測井	東神指地区(Hg)	RN-1(Hg)～2(Hg)	4回／年	※3
			1回／月	※4
	片門地区(Kt)	BN-1(Kt)～2(Kt)	1回／月	※2

※1：令和９年７月、令和９年１１月、令和１０年７月、令和１０年１１月
※2：令和９年１月から令和１１年４月までの期間
※3：令和９年５月、令和９年７月、令和９年９月、令和９年１１月
※4：令和１０年４月から令和１１年４月までの期間

２－５－２　水質分析試験

水質分析試験とは、共通仕様書３－１１－３「水質分析試験」に従い行う試験をいう。

適用基準及び項目については、下表のとおりとする。なお、試験は公正を確保するため受注者を通じて公的機関で試験を行うものとする。試験の実施については、現地水源の利水状況等を調査し、別途監督員と打合せの上行うものとし、試験結果を受領後は、その都度、速やかに監督員へ結果を提出するものとする。

水質分析試験の検測数量は、試験を行った試料数（試料）とする。

適用基準	項目	備考
水道水質基準	一般細菌	飲用水
	亜硝酸態窒素	
	塩化物イオン	
	全有機炭素（TOC）	
	味	
	臭気	
	色度	
	濁度	
	大腸菌	
	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	
地下水基準	カドミウム	重金属
	鉛	
	六価クロム	

対象	誤	正	備考
特記仕様書 2-8 ホタル類生息調査			訂正

誤

２－８　ホタル類生息調査

ホタル類生息調査とは、設計図書に示す水域におけるホタル類の生息確認、ホタルの幼虫の食物であるカワニナ等の生息状況及び生息水域の水深、流速並びに夜間の照度の調査を行うものをいう。なお、調査項目、目的と内容及び調査予定時期等は下表のとおりとする。

調査実施時期については、監督員と協議し定めるものとする。

生息調査計画、生息確認調査Ａ、生息確認調査Ｂ及び調査結果とりまとめの検測数量は、計画、調査及びとりまとめを行った延長（ｋｍ）とする。生息環境調査Ａ、生息環境調査Ｂの検測数量は、調査を行った回数（回）とする。

調査項目	目的と内容	調査予定時期等	備考
生息調査計画	1）契約締結後に現地踏査を実施し、現地状況を把握するとともに、生息調査計画案を詳細に企画し、その案に基づいて監督員と協議し、生息調査計画を策定するもの。 2）生息調査計画は、調査目的、調査位置、調査方法及び数量等を詳細に記載するもの。		技師Ｂ： 0.30人・日/km相当 技師Ｃ： 0.30人・日/km相当
生息確認調査Ａ	1）ホタルが群集している場所の範囲と概数を記録するもの。 2）ホタルが点在している場所の位置を記録するもの。 3）ホタルの種別を確認するもの。	対象水域でホタルが飛翔する令和９年６月～７月に４回	地質調査技師： 7.27人・日/km相当 地質調査員： 7.27人・日/km相当
生息確認調査Ｂ	1）生息確認調査Ａでゲンジホタルとヘイケホタルの成虫が確認された場所において、ゲンジホタルの幼虫の食物であるカワニナの生息状況と、ヘイケホタルの幼虫の食物であるモノアラやタニシ、カワニナの生息状況を確認し、生息密度が高い範囲と概数を記録するもの。	令和９年９月～１０月に２回	地質調査技師： 6.06人・日/km相当 地質調査員： 6.06人・日/km相当

正

２－８　ホタル類生息調査

ホタル類生息調査とは、設計図書に示す水域におけるホタル類の生息確認、ホタルの幼虫の食物であるカワニナ等の生息状況及び生息水域の水深、流速並びに夜間の照度の調査を行うものをいう。なお、調査項目、目的と内容及び調査予定時期等は下表のとおりとする。

調査実施時期については、監督員と協議し定めるものとする。

生息調査計画の検測数量は、計画を実施した延長（ｋｍ）とする。生息確認調査Ａ及び生息確認調査Ｂの検測数量は、調査を実施した延長ならびに回数（ｋｍ・回）とする。生息環境調査Ａ及び生息環境調査Ｂの検測数量は、調査を実施した回数(回)とする。調査結果とりまとめの検測数量は、(式)とする。

調査項目	目的と内容	調査予定時期等	備考
生息調査計画	1）契約締結後に現地踏査を実施し、現地状況を把握するとともに、生息調査計画案を詳細に企画し、その案に基づいて監督員と協議し、生息調査計画を策定するもの。 2）生息調査計画は、調査目的、調査位置、調査方法及び数量等を詳細に記載するもの。		（外業） 技師Ｂ： 0.30人・日/km相当 技師Ｃ： 0.30人・日/km相当 （内業） 技師Ｂ： 0.30人・日/km相当 技師Ｃ： 0.30人・日/km相当
生息確認調査Ａ	1）ホタルが群集している場所の範囲と概数を記録するもの。 2）ホタルが点在している場所の位置を記録するもの。 3）ホタルの種別を確認するもの。	対象水域でホタルが飛翔する令和９年６月～７月に４回	（外業） 地質調査技師： 1.82人・日/(km・回)相当 主任地質調査員： 1.82人・日/(km・回)相当 雑費： 労務費計の３％相当
生息確認調査Ｂ	1）生息確認調査Ａでゲンジホタルとヘイケホタルの成虫が確認された場所において、ゲンジホタルの幼虫の食物であるカワニナの生息状況と、ヘイケホタルの幼虫の食物であるモノアラやタニシ、カワニナの生息状況を確認し、生息密度が高い範囲と概数を記録するもの。	令和９年９月～１０月に２回	（外業） 地質調査技師： 3.03人・日/(km・回)相当 地質調査員： 3.03人・日/(km・回)相当 雑費： 労務費計の３％相当

対象	誤	正	備考
特記仕様書 2-8　ホタル類生息調査 2-9　水文総合解析(簡易)			訂正

誤

生息環境調査A	1）ホタル生息箇所の水深を５箇所測定するもの。 2）ホタル生息箇所の流速を５箇所測定するもの。	令和９年６月、７月、９月、１１月に各１回	地質調査技師： 2.25人・日/回相当 地質調査員 2.25人・日/回相当
生息環境調査B	1）ホタル生息箇所の照度を測定するもの。 2）調査箇所は、生息確認調査Ａで成虫の生息が多く確認された箇所と、生息が確認されなかった箇所で各１０箇所を測定するもの。	ホタル繁殖時期に近い令和９年６月	地質調査技師： 1.50人・日/回相当 地質調査員 1.50人・日/回相当
調査結果とりまとめ	1）生息確認調査、生息環境調査、調査概要、位置図、測定結果、調査結果及び考察等をとりまとめるもの。		技師B： 1.21人・日/km相当 技師C： 3.64人・日/km相当 技術員： 4.85人・日/km相当

２－９　水文総合解析（簡易）

水文総合解析（簡易）とは、磐越自動車道 会津若松～西会津間水文調査の補足業務であり、今回実施する各種の調査及び試験結果を含め、以下の内容について報告書にとりまとめる技術業務をいう。なお、水文総合解析（簡易）の検測数量は、解析を行った面積（k㎡）とする。

調査項目	目的と内容	備考
水文総合解析（簡易）	・ホタル類生息調査を除く調査箇所確認のための現地踏査 ・各水質基準値と本業務で実施した試験結果の評価・考察・判定 ・測定時期における、流量・地下水位推移状況等の評価・考察・判定 ・周辺環境の変化と各調査及び試験結果の評価・考察・判定 ・その他工事における水文環境への影響等について評価・考察・判定	技師長　：0.94人・日/k㎡相当 主任技師：0.94人・日/k㎡相当 技師A　：1.89人・日/k㎡相当 技師B　：1.89人・日/k㎡相当

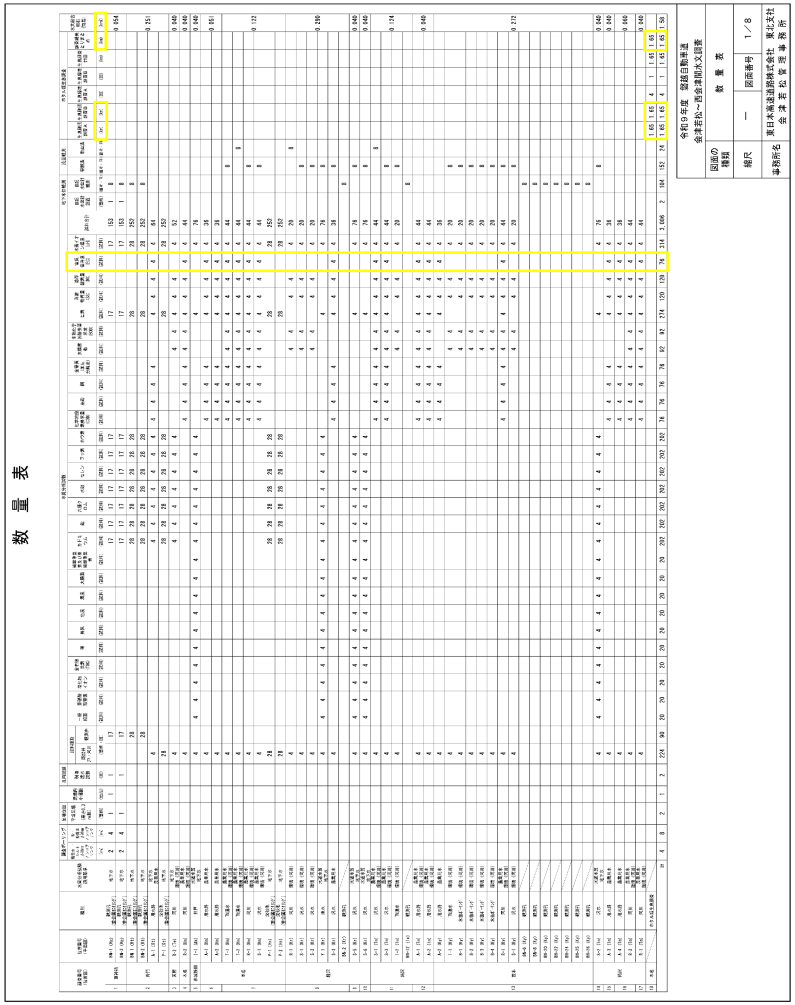
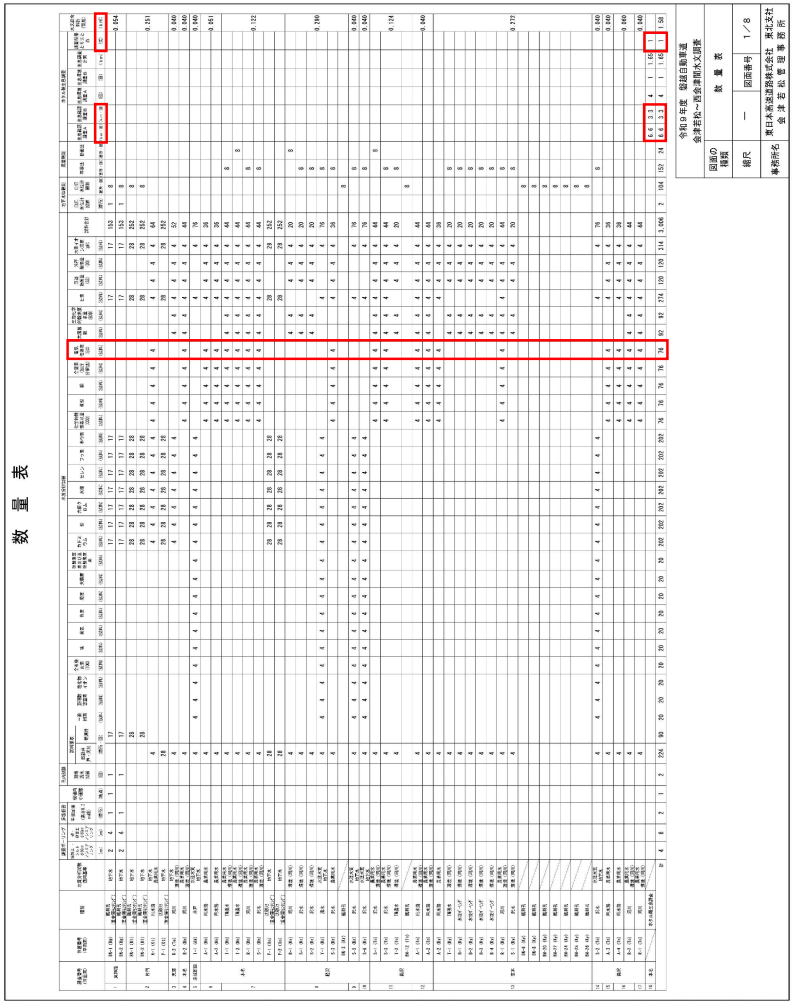
正

生息環境調査A	1）ホタル生息箇所の水深を５箇所測定するもの。 2）ホタル生息箇所の流速を５箇所測定するもの。	令和９年６月、７月、９月、１１月に各１回	（外業） 地質調査技師： 2.25人・日/回相当 地質調査員 2.25人・日/回相当 雑費： 労務費計の３％相当
生息環境調査B	1）ホタル生息箇所の照度を測定するもの。 2）調査箇所は、生息確認調査Ａで成虫の生息が多く確認された箇所と、生息が確認されなかった箇所で各１０箇所を測定するもの。	ホタル繁殖時期に近い令和９年６月	（外業） 地質調査技師： 1.50人・日/回相当 地質調査員 1.50人・日/回相当 雑費： 労務費計の３％相当
調査結果とりまとめ	1）生息確認調査、生息環境調査、調査概要、位置図、測定結果、調査結果及び考察等を１式としてとりまとめるもの。		（内業） 技師B： 2.00人・日/式相当 技師C： 6.00人・日/式相当 技術員： 8.00人・日/式相当

２－９　水文総合解析（簡易）

水文総合解析（簡易）とは、磐越自動車道 会津若松～西会津間水文調査の補足業務であり、今回実施する各種の調査及び試験結果を含め、以下の内容について報告書にとりまとめる技術業務をいう。なお、水文総合解析（簡易）の検測数量は、解析を行った面積（k㎡）とする。

調査項目	目的と内容	備考
水文総合解析（簡易）	・ホタル類生息調査を除く調査箇所確認のための現地踏査 ・各水質基準値と本業務で実施した試験結果の評価・考察・判定 ・測定時期における、流量・地下水位推移状況等の評価・考察・判定 ・周辺環境の変化と各調査及び試験結果の評価・考察・判定 ・その他工事における水文環境への影響等について評価・考察・判定	（外業） 主任技師　：0.94人・日/k㎡相当 技師B　：0.94人・日/k㎡相当 技師C　：0.94人・日/k㎡相当 （内業） 技師長　：0.94人・日/k㎡相当 主任技師　：0.94人・日/k㎡相当 技師A　：1.89人・日/k㎡相当 技師B　：1.89人・日/k㎡相当

対象	誤	正	備考
参考図 数量表			訂正

対象	誤	正	備考
入札公告（説明書）	2-11 参考見積書に関する問い合わせ期間：本調達案件においては非該当 2-12 訂正参考見積書提出期限：本調達案件においては非該当 2-13 入札書の提出期限：【提出期限】令和8年10月27日　16時00分 ※共通入札公告4-4.に示す入札・開札・落札者の決定に関する事項を十分に確認のうえ提出すること。 【提出方法】 [電子入札の場合] 入札者に対する指示書【電子入札】[12]から[14]に従い、電子入札システムにより提出すること。 [郵送入札の場合] 入札者に対する指示書【郵送入札】[12]から[14]に従い、次の提出書類を同封のうえ書留郵便等（書留郵便等による提出方法の詳細は、入札者に対する指示書の冒頭「お知らせ」を参照のこと。普通郵便、持参による提出は受け付けない。）により提出すること。 【提出書類】 (1)　入札書 2-14 開札日時：令和8年10月28日　15時00分 2-15 開札執行場所：本書1-4.に示す契約担当部署	2-11 参考見積書に関する問い合わせ期間：本調達案件においては非該当 2-12 訂正参考見積書提出期限：本調達案件においては非該当 2-13 入札書の提出期限：【提出期限】令和8年11月12日　16時00分 ※共通入札公告4-4.に示す入札・開札・落札者の決定に関する事項を十分に確認のうえ提出すること。 【提出方法】 [電子入札の場合] 入札者に対する指示書【電子入札】[12]から[14]に従い、電子入札システムにより提出すること。 [郵送入札の場合] 入札者に対する指示書【郵送入札】[12]から[14]に従い、次の提出書類を同封のうえ書留郵便等（書留郵便等による提出方法の詳細は、入札者に対する指示書の冒頭「お知らせ」を参照のこと。普通郵便、持参による提出は受け付けない。）により提出すること。 【提出書類】 (1)　入札書 2-14 開札日時：令和8年11月13日　15時00分 2-15 開札執行場所：本書1-4.に示す契約担当部署	訂正